

イヤーエンドパーティー

2016年12月17日(土)、恒例のイヤーエンドパーティーが柴崎学習館 地下1階 大ホールで開催されました。来場者は昨年より若干すくなかったが、それでも幼児を含め161名の参加があり、会場は熱気でいっぱいでした。中央に広いスペースを作ったり、舞台壇上に子供向けのゲーム等新設コーナーを設け



たり、随所に企画部員の例年と違った工夫が見受けられました。

前半は元受講生による美声で開幕して、フラダンス

チームによる演舞へと続きました。会場中央に参加者が大きな輪



を作り、昔懐かしいフォークダンスを多くの方々が踊り楽しみました。

会場の後ろの壁際にはボランティアが手作りした料理がずらりと並び、例年通りのチキンカレー、マカロニサラダ、フルーツポンチの他、お好み焼きも登場しました。綿飴とポップコーンはその場で作るため大賑わい。舞台壇上では、子ども達は昔懐

かしい手作りのゲームに熱中していました。

後半は本場コロンビアのラテンの曲に合わせたダンスとフラ



ダンスチームのご指導の下、会場中央に多くの参加者が輪を作り、締め〆”東京音頭”を踊り大盛り上がりでした。最後は土曜クラスのバンド生演奏でした。

例年とは違った新しい企画を多く盛り込み、特に問題もなく順当に進行し大成功でした。当日、調理や運営準備に携わった皆さん、お疲れ様でした。イ

ヤーエンドパーティーを企画した企画部員の方々、有難うござ



いました。

未来を切り開く多文化共生社会

会長 斎藤 寛

立川市では、昨年12月19日の市議会本会議において全国に先駆けて「多文化共生都市宣言」を実施する事が議決されました。2020年のオリンピック・パラリンピックを控えて、「多様性の調和」を目指す未来社会に対する先導的で画期的な施策であると評価したいと思います。

我が国の将来を見極める重要な視点の一つとして、少子高齢化が問題視されています。この問題を解消する為に、外国人の受入れが重要という指摘が各方面から内閣府にも提言されており、現実には専門的・技術的な分野で外国人の積極的な受入れを表明しております。その結果、最近是我々のボランティア活動である「外国人のための日本語教室」にもベトナムからの技能研修生の受講生が増加している状況があります。

雇用スタイルには、短期から長期まで多彩な形態があるが、望むらくは、長期に定住化出来る外国人が増大するような施策を実施すべきであります。我々のボランティア活動は、定住化を目指す外国人を第1次的に生活用語の日本語能力を高め、安心して安全に、立川市内及び周辺地域に生活出来るようになるために、貢献すべきであると思います。先ず近隣周辺の日本人ときちんと挨拶が出来て、地域社会で安全・安心な生活を、保障してあげたいものです。ごみ出しのルールにも慣れ、地域の清掃活動やイベントにも気楽に参加出来、地域社会の一員として、仲良く生活出来るように支援してあげましょう。そのためにも「やさしい日本語」で支援してあげることが、日本語教室の使命と自覚を新たにしたいものです。今年も「仲良く、楽しく、元気よく」、日本語教室ボランティア活動に励んで参りましょう。

ニューカレドニアの中学生たちを迎えて

土曜教室 木下 究

2016年10月5日、フランス共和国ニューカレドニアから13名の中学生が来日し、10日間立川市内でホームステイをしました。市内の小・中学校との交流事業をはじめ、スカイツリー、浅草、多摩動物公園などの観光やホストファミリーとのショッピングなど、日本滞在を満喫していました。

私は、語学ボランティアとして、受け入れ団体「立川ニューカレドニア交流支援ネットワーク」のお手伝いをしました。大変貴重な経験でしたので、立川とニューカレドニアの交流の歴史も振り返りながら、簡単な報告をさせていただきます。

ニューカレドニアでは、1982年にポドゥー中学、ラペルーズ高校、ヌメア商工会議所で日本語教育が開始されたそうです。その背景には、1982年以降ニッケル労働移民として日本人が移住し、現在8千人近くの日系人が住んでいることや、年間約3万人の日本人観光客が訪れるという日本との関わりの深さがあるよう



です。

立川との関係では、1983年に立川シティハーフマラソンの前身立川マラソンとニューカレドニア国際マラソン大会が姉妹提携し、

双方の大会に選手団の参加枠を確保することになりました。翌1984年には、立川青年会議所とニューカレドニア青年会議所の交流も始まっています。そして、1993年に開催された立川子供世界音楽祭にフランス代表としてニューカレドニアの子どもたちが参加したのをきっかけに、1996年から中学生交換留学事業が始まりました。2016年は事業開始20年の節目の年でもあったわけです。

私は第4小学校との交流事業に参加しましたが、4小の生徒たちはまるでアイドルでも迎えるかのように、興奮して中学生たちを迎え入れてくれました。教室では、目を輝かせて次からつぎへと質問をあげていました。他の小学校、中学校でもそれぞれ創意工夫をこらして、楽しく有意義な交流事業が展開されたようです。このようなかたちで、未来を担う若者たちが異文化理解の機

会を持ち、海を越えて友情をはぐくむきっかけをつかむことができるのは素晴らしいことです。まさに、多文化共生の地域社会の基盤をつくってくれる事業だと言っていいと思います。

このような事業の末席に連なることをお許しいただいた関係者のみなさん、ホストファミリーの方々に心よりお礼を申し上げます。と思います。



ニューカレドニアの中学生と立川市長

TIFA 土曜教室のボランティア紹介

氏名：倉谷 奈美 女性50代

住所：立川市若葉町



TIFA 入会時期：2015年9月

入会理由：以前から国際協力の仕事をやってみたいと思っており、市報でTIFAの募集広告を見て、入会。

今まで教えた受講生：

スペイン 男性 30代 1年

中国 男性 30代 3ヶ月

カナダ 男性 50代 3ヶ月

私の教え方：

ほとんど1対1で、初級の方はみんなの日本語の教科書を中心に教えて、復習の所でまとめのプリントを作って渡しています。日常生活で使用する生活漢字のプリントも使用しています。現在は上級の方なので、受講生の読みたい記事を一緒に読んで、漢字の読み方や、意味の分からないところを説明し、その話題について会話しています。

教えていて楽しいところ／難しいところ：

毎回新しい発見があり、受講生の方から学ぶところもたくさんあり、とても楽しいです。わからない語句や表現の意味の説明が難しいです。

氏名：杉坂 篤 男性 70代前半



住所：立川市柴崎町

TIFA 入会時期：2011 年

入会理由：現役時に台湾駐在(5年)、何度かの中国出張の経験から、現地で実用的な中国語を習得するのに苦労しました。そこで、来日中国人に私の経験から、日本語習得のお手伝いをしたい、又出来たら忘れかけた

私の中国語のブラッシュアップもしてみたいため。

今まで教えた受講生：主に中国人の生徒約 25 人。

私の教え方：教材は生徒の要望、レベルに合わせ様々ですが、

- ① 生徒が持参した教科書
- ② 「みんなの日本語」、
- ③ 中国人の日本語作文コンクールの入選作、
- ④ NHK 中国語講座のテキストの中から参考になる教材、エッセーの日本語翻訳文を選び、最後に中国文を読み理解を深める等々。

工夫としては

- ① “正解した時” “明らかに上手くなった時” は “褒める！”
- ② たくさん “聴き” “話し” “書く” を基本にし、・私の朗読を聴く、・朗読のすぐ後からリピート朗読する、・勉強中の日本語を使って短文を作る、・ひらがな日記を書いてくる等々を行いながら、生徒、先生共に楽しみながら日本語、中国語にチャレンジしています。

氏名：波多野進 男性 70代後半



住所：立川市砂川町

TIFA 入会時期：2001年6月16日

この日から3回の「見習い」があり

入会した理由：海外の赴任先の職業訓練校で、ボランティア教師に英会話を教わり、逆の立場で、少しは役に

立てばと思い入会しました。

今まで教えた受講生：

- ①中国 男子中学生 13歳 3人一緒に 2012年5月から7か月くらい

親の都合で立川に来て、市立中学校に通っていました。昼間の疲れと空腹とゲームで、なかなか勉強に集中しないため困りました。教材は彼らの希望を聞きながら対応しました。私の中学時代と今の中学の教科書の違いに戸惑いました。

②中国 男性 30代 2013年10月

調理師でした。日本料理を勉強したいということで、予備知識に役立つような教材(料理のエッセー)を準備しましたが、3回で来なくなりました。

氏名：牛島 芳 女性60代

住所：立川市柴崎町

TIFA 入会時期：約15年前

入会理由：自宅(立川)と職場(新宿)の往復のみで立川の事

を知らないことに気づき、市の広報に TIFA の日本語ボランティア募集を見つけ、研修があるという事で応募しました。

教室で特に心がけたこと：

- ①新しいボランティアの方が早く TIFA に慣れるようにしてあげること。7時に来て9時に帰る間、ボラ

ンティア同志の会話がほとんどなく、日本語を教えに来ているのでそれで良いと思っている人が多かったようでしたが、積極的にボランティア間の情報を交換するよう心掛けました。

②以前、語学教材会社で働いたこともあり、話すことに重点をおき、受講生が出来るだけ多くの日本語を口からさせるよう心掛けています。

立川近郊で受講生の方々が楽しく不自由なく生活できるよう応援していきたい。



木曜教室ランチパーティー

12月15日、柴崎学習館の3階で木曜教室恒例のランチパーティーが開かれました。普段、学習机として使われているテーブルを寄せ合わせて大テーブルとし、大勢の受講生とボランティアが、テーブルの周りを囲んでの立食パーティーです。はじめに会長の挨拶があり、会食は始まりました。各自が持ち寄った手作りの料理やデザートなど、テーブル一杯のご馳走を味わいながら、日本語教室の楽しさや苦労話などに花が咲きました。ひと時の団欒の後、名残惜しみながら閉会となりました。



土曜教室の近況

土曜教室 的場正道

平成28年度第2学期(全15回)の出席受講者数は各回平均で37名、最大47名に達し、一年前に比べ2割以上の増加となりました。受講生の出身国は多岐にわたっていますが、中でも中国の35%、ベトナムの25%、インドの10%が際立っています。属性別に見ますと、ビジネス関係者及びその家族が50%、日本人の配偶者及びその家族が20%、技能実習生が15%となっています。これらに見られる傾向は、まず「技能実習生」が増加していることです。立川市及びその周辺の内装・建築・土木などの仕事に従事しています。次に「ビジネス関係者及びその家族」の増加で、各種の技能職に就いている人・会社員などです。配偶者と子供を帯同するケースも多く、日本に於いて長期滞在の生活基盤を築いていく人々と思われるます。

運営上の課題ですが、受講生の増加により教室スペースのキャパが既に限界に達しており、講師並びに受講生にご不便を掛けています。また、マンツーマンによるきめ細かい授業が困難になりつつあります。

今後これらの課題を克服し、良好な学習環境を確保できるよう、更に努力していきたいと思います。

木曜教室の近況

木曜教室 小木曾 夏樹

9月1日から12月22日まで15回の授業を開催し、10月20日には恒例となった南砂小との交流会を実施しました。尚、立川市の他の小学校の複数からも交流会の希望が寄せられておりTIFAの地道な国際交流が着実に実を結びつつあります。

12月15日は授業終了後に2学期を締めくくるランチパーティーを開催し、ボランティアに受講生が得意の料理・お国自慢料理を持ち寄り楽しいお昼の一時を過ごしました。

木曜教室の特徴は今年度に入り受講生が減少しつつあること。1・2学期合計での累計受講生の総数は対前年同期比で70%前後となっており、外国人の雇用情勢の変化など様々な要因が考えられます。



られます。

日本語アラカルト

木曜教室 山崎耕造

今回は長い日本語教育の歴史に於ける一般庶民の役割について考えてみます。

その歴史は16世紀イエズス会の宣教師に始まります。宣教師たちは、当時ゴア(インド西海岸)やジャワ(インドネシア)にいた日本からの漂流民を伴い、日本語教育に当らせました。又、同時代、日本に食指を伸していたロシアでも、大学で漂流民が日本語教育を担っていました。漂流民は私達と同じく日本語教育の専門家ではありません。時を経て、グローバル化の今、全国各地でボランティアが外国人に日本語教育の一翼を担っています。つまり、長い日本語教育の歴史の中で昔も今も私達と同じく一般庶民の力があってこそと言えるのです。

☆TIFA 会員動向☆

(敬称略)

【入会者】

木曜、土曜、西砂：なし

【退会者】

木曜、土曜：なし

西砂：渡邊祐輔

【休会者】

木曜、土曜、西砂：なし

【復帰者】

木曜、土曜、西砂：なし

☆☆今後の予定☆☆

木曜教室 ランチパーティー：3月16日(木)(予定)

土曜教室 節分：1月28日(土)

茶道体験：2月25日(土)

(お茶の飲み方の作法)

スピーチ大会：3月25日(土)